

「ソフオニスバ」(又は、打倒されたハンニバル)(五幕)

ナサニエル・リー 著  
千 葉 孝 夫 訳

五幕一場

ハンニバル、及び、スキピオ、登場。

ハンニ 人々が、その名もいや高きスキピオ、と取り沙汰している

頭領は、あんなのかな？

スキピ あんたは、(私より)遙かに有名なハンニバルのかな？

ハンニ 今迄、あれ程凄まじい、数々の戦闘で、勝利を収めてきて、

何処かの山から迸り落ちる奔流宛らに、

雲表に聳ゆるアルプスから、誇り高きローマの城壁迄も駆け抜けて

来た、この私が、

不面目にも、今や、遂に、和平を懇願せねばならぬ、ということとは、

依怙贗賈する、我々の宿命に定められていること故、

この会見で、あの名譽面目をば、刈り取るべく、

神々が、貴方を選び出してくれたことを、私は、彼等に感謝します

5

ぞ。

スキピ それは、丁重な讃辞ですが、しかも、いとも勇猛な好敵手の口を吐いて出た、そのお言葉には、

真の剛勇が、快楽の感覚と混ざり合っているのが見えますな。

あなたのお言葉は、途轍もなく大きな喜びをば、私に覚えさせてくれるので、

たとえ、闘いで、あなたに打ち勝つても、それを凌ぐ程の喜びには

殆どなりませんまい。

ハンニ 神々が、我々の先祖達に授けてくれたのは、大したものではない

たな

貴方がイタリアを、我々がアフリカを領有出来るようになった、

ということは何。

アフリカにおける、我が方の武力は、ローマ軍の血をたつぷりと流

させましたか、

一方、カルタゴ軍は、ローマ軍の猛威をば犇々と感じたのです。

あなたは、如何言われるかな、我々が目指すべきは、和平と戦の何

15

10

れなのですか？

我が方が行つた侵略に対しては、我々は、賠償致しますぞ。

我々は、貴方方に、シチリア、サルディニア、スペイン、

及び、イタリアと、アフリカとに挟まれた大海原に泛んでいて、

我が方が、武力で勝ち得た島々を、残らず差し上げますぞ。

激烈なあなたの勇猛心は、戦へと傾いておるし、

利得よりも、栄光をば、貴方は、志しておられるのですな。

そんな運勢は、嘗ては、我々の守護神に光り輝いたこともあるので

す。

ですが、長い経験と、戦の巡り合わせとは、

今のところ、間違いない和平の方を、私に選び取らせるのです。

王笏を掴もうとして、手を差し伸ばしてはいけませんぞ、それが、

筈に変わつてしまわぬものでもありませんからな。

今日この日は、貴方が、勝利をものにされましたが、明日は、神々

のものになりますからな。

スキピ あなたが、つい先頃、レプティス・マグナの<sup>(43)</sup> 岸辺に上陸した

こととて、

項垂れているカルタゴが喪つていたような希望が取り戻されたの

だ、と

誰しも認めるに違いありませんな。我々は、承知していますぞ、貴

方こそ、その栄光が

極北のテュール<sup>(44)</sup>に迄も及んでいた、他ならぬその人物であること

を。

冬の陣営内で産声を上げ、戦闘の只中で養育され、

未だほんの若者に過ぎぬうちから、敢て軍勢の先頭に立ち、

その名前を聞くだけで、ローマ人達を悲嘆にくれさせる可能性があ

り、

虚ろな、どの墓穴からも、死者達に迄も、否応無しに呻き声を出さ  
せるような人物だったのだ、とね。

いとも大胆不敵な元老院議員達も、意気阻喪し始めたのですな。

しかし、誰もが、意気消沈した時、この私だけが、敢然と立ち上が

り、

遠くから我々を脅かしている、あの嵐に立ち向かったのです。

灼熱の砲弾を打ち込み、運星宛らに、敵に蔽い被さつたのです。

アフリカへとやって来て、数ヶ月後には、あなたが、

武力を揮い、長年に互つて、獲得したものを、何もかも取り戻した

のです。

和平をば、私は、拒否しますぞ、あなたが、それ以上のものを提供

してくれるのでなければね、

以前には我々のものだったものを除いて、あなたは、未だ、何も

我々に提供してはくれませんか。

近隣諸国の国王達が、挙つて、我々の行動に注目しているからには、

とどのつまりは、我々二人が、自分達の命運を試すことだけが残つ

ておるな、

一人は、勝者になるが、もう一人は、死ぬ他ない、ということをな。

ハンニ 神々よ、栄光燦然たるこのハンニバルが、腰を屈めて、頼み

込んだというのに、

それを拒否されてしまうとは！ こうなれば、もう、闘う他はない

でしょうな。

忘れっぽい勇者よ、その武力の所為で、二度に互つて、

己が父親が敗北を喫したその息子をば、あなたは、口説くことが出

来るものかな？

スキピオよ、あなたは、己が誇り高さを悔やんでも後の祭り、

自分が死ぬ段になつて、その激昂ぶりを叱りつけても、無駄という

35

30

25

20

50

45

40

ことになるかも知れませんぞ。

ローマの楯となつて、その都をば、害悪危害から擁護した、かのファビウスのことを考えてご覧なさい。

ローマの剣として闘つたが、私の武力に破られたマーセラスのこと  
も、

更に、私に斃された、偉大なアエミエリウスのことをも想い出して  
下さい。

して、それから、最後に、ご自分の命運が、これから如何成り行く  
ものだろうか、をも考えてご覧なさるがいい。

今日の勝負は、未だ決して、梟がついてはいないのです。

血の海を作り出して、我々は、近隣の森林を水没させてやりますし、  
向うに見えるあの太陽は、ローマ兵達の血の海の中に没してゆくこ  
とでしょうな。

スキピ あんた方の、最後の闘いの声を聞く心準備をされるがよい。

ハンニ 闘いの場にてお会いしましょうぞ。準備だ！ 戦闘準備をせ  
よ！（一同、退場）

ロザリンド、男装して、登場。

ロザリ こんな扮装をして、抜き身の、勇ましいこの剣を携えてやつ  
て来たのだ。

私が率いている軍勢を除いて、その私をば、阻止出来るものが、何  
かあるものだろうか？

おお、残酷な造化よ、一体何故、貴方は、女性の顔を持ちながら、  
これ程勇猛な気魄の持主（たるこの私）を辱めよう、となさつたの  
ですか？

ありとあらゆる女性達は願うけれど、どの女性も、間違ひなく、出

来ないことでしょうかね、

男性という、あの堂々たる生き物に変わる、ということは何ね。

だけど、その高邁な野心が、数々の偉大なことを、今迄企ててきた  
私の心をば、私は、この衣装に合わせよう。

私は、戦場に出て、敵を追い立ててやろう、もしも、ハンニバル様  
が、勝ちを制したならばね。

だけど、もしも、あの方が、敗れたならば、その時こそ、このロザ  
リンドは、血を流すことになるのだわ。

ハンニバル、マハーバル、及び、ボミルカー、登場。

ハンニ 我が軍の両翼は、殲滅され、カルタゴ兵達は、降伏した。

凄まじい勢いで、カイウス・ラエリウスが、戦場の隅から隅迄も、  
彼等を追い廻しているのだ。

ガリア兵達と、リグリア兵達とは、退却してしまい、  
マッシリア王は、何もかもぶち壊している、

暴風が、驟雨を吹き上げ、霰を撒き散らすような、  
駿足の軍勢を率いて、彼の武力が、我が軍を襲撃したのだからな。

ボミル 我が軍の象部隊宛らに、彼は、荒れ狂い、  
戦場中を漁り歩きながら、彼の打撃を避け、

鷹を目の前にした、鳩の群宛らに、飛んで遁げるような、  
金銭づくの（報酬目当ての）下郎共を蹂躪してしまうのですな。

マハー 勇猛老練な、貴方のイタリア軍は、貴方の（指揮命令を受け  
ての）

戦いを最後まで戦い抜こうと、決意して、己が地歩を死守している  
のであります。

戦勝を重ねる、あの執政官は、その部将達全員、及び、ア（ハ）スタ

65

60

55

85

80

75

70

シユ兵、トリアリ兵<sup>(51)</sup>という<sup>(52)</sup>

精強無比な兵士達を率いて、戦場の到る所馬を乗り回し、喇叭を鳴り響かせ、太鼓を叩き轟かせながら、此方へやって参りま  
すぞ。

ハンニ 目出度いユノーよ、今迄ずっと、我々の主義主張に

好意を示し、我がカルタゴ国に微笑みかけてくれた貴女よ、  
将兵の血が流される、残虐にして、恐るべき今日この日、我々の武  
技武力に榮えあらしめ、

名声の記録にも、ついで見つからなかつたような、  
貴女のお名に因んだ神殿の  
礎<sup>(いしづえ)</sup>をば、このハンニバルに築かせて下さいますよう！（一同、退場）

マシニツサ王、及び、ラエリウス、登場。

マシニ 敵の敗走が、臆病者共に、翼を生やさせたのだ。彼等を遁走  
させておくがいい、

戦勝を博している我々に、これ程の剣を揮われて、死ぬだけの値打  
もない彼等なのだからな。

今やもう、我々が、執政官の許へと赴いて、  
我々の軍勢を合流させ、この戦に決着をつけるべき時が来たな。

ハンニバル、及び、スキピオ、相闘いながら、登場するが、スキピ  
オ、劣勢となる。其処へ、マシニツサ王、及び、ラエリウス、登場  
して、ハンニバルを撃退する。

スキピ 神々よ、何という驚異的な剛勇の士をば、貴方は、遣して  
下さったことでしょう！

又、如何程の謝礼を進呈すれば、相応しいものでしょうかな！  
おお、マシニツサ王よ！

あなたが、一撃を下してくれたお蔭で、一体如何程素晴らしい目まぐ  
るしきで、運命（女神）の

紡ぎ車が、廻ったことか！ 何とあの勇者が、浮き足立ったことだ  
ろう！

ラエリ 恰も、何処か遠くにいる樵夫<sup>(きこり)</sup>が、樫の木を切り倒す時、

一撃目の、ガツンという音が、我々の耳に届きませぬうちに、  
二撃目を加えようとして、彼の腕が上がるのを、我々が見るような  
もので、

それ程、我々の気力は、萎えてしまったのです。又、その音が、彼  
処にいる彼の耳に届いた筈ありませんな。

スキピ イタリア軍は、雄々しい、熾烈な、彼の熱情に怯<sup>(ひる)</sup>みたじろい  
だが、

ハンニバル本人は、最後に撤退したのだ。  
何処から何処迄も、獅子宛らで、

大胆不敵な狩人達の一団に見つけられた挙句、  
彼は、敢て奮起しようとして、目玉をギョロ／＼させ、

その脇腹を、尻尾でバシ／＼と笞打ち、地面を、足の爪で引つ掻き、  
骨折つて、不釣り合いなその小競り合いから抜け出し、  
のっ／＼と闊歩して、その敵共に立ち向かうのだな。

そのように、その闘いから、偉大なその將軍は、抜け出したのだ、  
損失を蒙りながらも、誇り高く、没落しながらも、意気軒昂として  
ね。（一同、退場）

兵士達、小競り合いをしながら、登場。ロザリダ、倒れる。

95

90

115

110

105

100

ロザリ おお、天よ、貴方は、最悪のことをして下さいましたわね。

もうこれ以上、何も為さるには及びませんわ。

自分が敗北した故に、却つて大胆になったこととて、私は、貴方の

力を物ともせずに、

自分の生せいの、最後の一時間が入っている砂時計をば、ガタ／＼と揺

すぶつてやりますわ。

おお、ハンニバルよ！ この為にこそ、私は、

この心、この若さ、及び、美貌をば、只管貴方だけのものにして、

と予定したのでしたわね。

高い誇りを崩さぬ儘、私に想いを寄せる、どの男性をも、歯牙にも

かけず、

貴方を征服する者と、全世界とを蔑んでね。

この私に倣つてね、勝利を喪つた勇者よ、偉大な心の持主になつて、

死ぬことを会得して下さい。

勇者は、勝利を喪つたなら、血を流すべきものなのですわ。

ハンニバル、マハーバル、及び、ボミルカー、登場。

ハンニ カルタゴは、喪われ、このハンニバルは、敗北を喫してし

まった。

我が方が、我々自身の持ち物と呼べるような物が、何か残つていよ

うか？

血を流している全世界をば、ローマは、我が物なり、と、戦勝によつ

て、要求主張し、

(戦敗によつて)我々の名声が、ローマ方に趨り移つてしまつたこ

ととて、その戦利品に鼻高々となつておる。

しかし、非運にも拘らず、我々には、身の丈だけの地面があるのだ

130

からな。

こうして、戦敗を喫したからには、栄光が、墓穴の中で、経帷子宛

らに、お前を包み蔽つてくれようぞ。

ボミル お待ち下さい、將軍、神々は、貴方の死を禁じておられるの

ですぞ。

復讐は、当然お果たしになるべきですな。先ず、裏切り者のハン

ノーに、血を流させてやるのです、

何しろ、奴こそ、戦勝を博していた、我が軍の両翼を刈り取つて、

それが斃れ死ぬ他はなくしてしまつた張本人なのですからな。

マハー 私の手で真つ逆様に、地獄へと、奴を送り込んでやりますぞ、

其処では、悪鬼達が、(送り込まれる)謀叛人達に備えて、通常の

二倍もの火を燃やして、待つていますからな。

その後で、令名隠れもなきハンニバル様が、息をお引き取りになら

れるが宜しうございましょう。

ロザリ 確かに、ハンニバル様のお名前が呼ばれるのを、聞いた筈だ

わ。マハーバル、教えて、將軍は、其処にいらつしやるの？

マハー 近寄られて、將軍、傷ついた、この麗しの女性を、篤とご覧

下さい。

確かに、このカプアカ生まれの、貴方の恋人の裡に、私は、貴方と同

じ

威厳ある様子と、魅惑的な物腰とを見て取りましたからな。

ハンニ おや！ 私が、今迄戦鬪で蒙つた、ありとあらゆる損失にも

まして、

私を苛酷に苦しめる想いをば、あなたは、呼び覚ましてくれたな。

私は、夢を見ているのか、閉じかけているこの目で、

ポーッととなつた私の感覚が、ロザリンダの姿を見つけ出したか、の

145

125

120

140

135

何れかなのだな。

ロザリ 一体何処に、大望を抱いたあの方は、憩つておいでなのかしら？ おお、ハンニバル様！

ハンニ あなたは、一体何者だな、惨め極まるこの私に、そんな風に呼びかけるあんたはな？

ロザリ 貴方よりもつと惨めで、無分別な女で、スキピオにはなく、宿命にこそ、頭を下げたい、と思つている者ですわ。

身を襲<sup>か</sup>して、死にかけている、このロザリは、(貴方のお姿を)見ているのです、

死に瀕して、貴方が戦敗を喫した、という

あの最後の屈辱を悲しみ嘆いている、この私はね。

ハンニ この戦を取り仕切る、恐ろしい女神よ、

貴女の予言が、洗い滌い、余りにも真実なることが、私には分かりましたぞ。

神々は、私に、二重の敗北を喫せしめたのだ。

ああ、私は、敵の手にかかつて、雄々しくも滅び、

戦場に長々と横たわり、こうして敗北したのだ、と知る由もなく、

責め苛まれるこの私が、心から、あなたの破滅を嘆き悲しむこともなければよかつたのに。

ロザリ 私達の願望を達成するのが、そんなに難しいことでしょうか？

悲しみに沈む人の心は、血を流すと共に、焼けつくような、恋の激

しい苦痛をば、忘れてしまえるものなのですからね。

ハンニ おお、瀕死の、麗しの女性よ、見上げて、暫しの間でも、甦つていて、

束の間の歎びを抱かせて、永劫の心労を紛らわさせてくれ、

沈みゆく夕日は、夜の闇に、すっかりぐるりを取り巻かれてはいても、

立ち去る時には、今迄よりもつと強烈な光を放つようなものだ。

ロザリ もつと早く流れるがいい、この体内の血よ、だけど、どうも、そうなりはしないでしようね、

この傷口は、小さ過ぎて、死神は、此処から入り込めはしないでしようからね。

だけど、名誉面目は、さつさと遁げ出してしまったというのに、この私は、愚図愚図と、生き残つていなければならないものでしょうかしら？

ハンニ 生きていくがいい、すれば、私が、その名誉面目を、死者達の間から甦らせてやるからな。

ロザリ 名声は、時間宛らに、走り続けるのだけれど、決して、後を振り返ることはないのですわ。

ハンニ それでは、我々は、その足の早い名声に追いついてやろう。

我々は、栄光が、餌をつけて、我々を誘つている所、つまり、どの

砦へも急ぎ赴き、

古い名声を凌駕するようになる迄、新しい名声を昇りつめてやろうぞ。

ロザリ 愛しいハンニバル様、ああ！ 私に、それが出来れば、と思

いますわ。

だけど、それは、ありえないことでしょう。生ある者は、震えながら、満ち潮にのるのだけれど、

遂には、すんでのことに、血の海に呑み込まれそうになるのですわ。

ローマの栄光は、余りにも不吉な程にも、けざやかに光り輝いてい

るし、その輝きが、次第に強まりゆくと共に、私の目が、ぼやけてきまし

160

155

150

175

170

165

たわ。

永劫におさらばですわ。私のこの軀をお受け取り下さい、私は、貴方の為に、それを、純潔で完全な儘に保つていたのです。それは、私が、今、貴方に差し上げられる、ほんのささやかな贈り物なのですわ。(死ぬ)

ハンニ 永劫に逝ってしまった！ 彼女の響しい息の貯えは、悉く、溜息一つで消費されてしまった。それは、贅沢な死神の、浮かれ騒ぎだったのだ。

ところで、私の武力にかけて、神々は、余りにも不公平なのだ、さもなくば、彼等は、私の充実した戦商売を羨望したものだ、それは、天上の(神々の)領地を遙かに凌駕するような、あれ程広大な、美々しい王国を買い取ることが出来たのだからな。今は亡きロザリンドよー

ボミル 地面からお軀をお起こしになり、恋心に、貴方の強力な美德高潔をぶち壊させないで下さい。造化の障碍に立ち向って、貴方の軍勢を率いて行かれた、あの熱烈さと、堂々たる剛勇とは、一体何処へ行ってしまったのでしょうか？

マハー 神々が、それ程の剛勇をば、徒らに授けられた、と貴方はお考えですか？

貴方は、王座を支え、倒壊しかけている王国をお救いにならなければいけないのですぞ。

物想いに耽られ、名譽面目の呼び出しに耳を傾けられもせず、貴方のお心は、その最高点に届くことなく、その直下で、敢なくも転落してしまうのですな。

ハンニ マハーバル、そうではないのだ。あんたは、驚愕することだらうな。

180

我々は、運命を物ともせず、敢て雄々しく振舞えるだろう。恋が与えることの出来る、ありとあらゆる富を奪われようと、栄光を剥ぎ取られても、我々は、生きようとするだらうな。勇氣とは、精妙な鑄型に嵌め込んで作られていて、ぐるりと金剛石の帯で取巻かれているのだ。

渝わることなく、気概のあるこの胸中に、大変な情熱が授けられているので、

私は、地獄、乃至は、天国の、何れの召喚にも応じられようし、あの偉大な、永劫の主動者(たる神)宛らに、武力を揮って、全世界を支配し、服従することを、彼に教え込んでもやれよう。

つい最近、私の姿形を変えたのは、高潔なる悲歎だったのだが、今や、私は、苛立つあまりに、嵐と化したのだぞ。

ボミル 貴方が愛しておられた、あの女性の遺骸をば、我々は、運び行き、

何処か神聖な地下納骨所に、あの方の遺骸を葬る心算ですぞ。

マハー 巡礼宛らに、年に一度、我々は、喪に服し、あの方の墓に、糸杉の小枝と共に、悲しみを表わすいちいの枝を投げかけ、

我々が貯えている限りの、泪と、溜息とを、残らず捧げますぞ。

ハンニ 永劫に、あんたと同じ女性の中でも、最もけさやかなあんた、おさらばだな。

あんたは、余りにも立派過ぎる程の女性だった、それ故、若死にしたのだな。

若いフェニックスが、神聖なミルラを塗って、その父親の遺体をば、太陽神の神殿へと運んで行く如く、名声の殿堂で、あんたは、名譽栄光を与えられて、礼遇されるだらうな。

195

190

185

200

205

210

215

うし、

どの神もが、あんたの爪の垢を煎じて飲むことだろうて。

マハー あの方が、今わの際に、告白された如く、栄光が、

お望み通りの領国をば、貴方のお胸の中一杯に拡げてくれるかも知れませんか。

ハンニ 急げ、急ぐのだ、マハーバルよ、新たに兵を徵募するがよい。

つい今し方迄、静かに眠り込んでいた名譽面目は、

大洋宛らに、嵐の中に目覚めよう。

我々は、アルプス山中の新たなルートを過ぎり、新たに執政官達を打ち破り、

今迄よりも遙かに恐ろしい軍勢を率いて、ローマへと押し寄せようぞ。

アツピア街道<sup>(57)</sup>、及び、(ア)エミリア街道<sup>(58)</sup>をば、力づくでも押し通り、サブツラへと、我々は、戦闘を続行してゆく心算だし、

又、ロザリンドの彫像が、王冠を冠せられ、

神々のお相伴をして、玉座に昇り、ユピテル神殿に坐するようになる迄も、止めはせぬぞ。

(二回、退場)

スキピオ、マシニツサ王、ラエリウス、その他、登場。

スキピ 私としましては、勇猛な国王よ、これ程幾度も拒否せねばならぬとは、遺憾千万なことですな。

ですが、あの女性は、捕囚にしなければならぬのです、さもなければ、我々は、余儀なく死ぬことになるのですからな。

マシニ 彼女は、そうならなければならぬと、私には、分かっていませんぞ、もしも、貴方が、そうしよう、というお心算なのでしたらね。

ですが、恩(特)赦は、敵にさえも、授けられても宜しいのではありませんか。

おお、それなら、彼女を容赦してやって下さい、貴方が、最期をお迎えになつて、

天国に赴く準備をしておられる時、己が罪を赦されたい、と思つていらつしやるようにね。

スキピ 祝福を求めることを、覚えられるがよい、貴方は、それに不足することはありますまいからな。

これは、呪い(災い)で、私が、如何しても授けることの出来ぬものですぞ。

酷い熱病の床に伏していて、水をくれ、と嘆願する病人が、もしも、その水を飲んだなら、死んでしまうようなものですね。

私は、賢明な医師宛らに、あんたの気持の裏をかき、巧みな腕を揮つて、貴方の病を打ち負かしてあげますからな。

マシニ 神々の為、友情・栄光・恋の為、

この地上で立派な全てのもの、乃至は、天上で神聖清浄な全てのものにかけて、

最後になつて、存分に鍛えられた私の剛勇をば、項垂れさせず、今迄貴方が養育して下さつたこの私に、断腸の思いをさせないで下さい。

い、

頻りに口を吐いて出る、この溜息と、滴り落ちる泪の対象にね。

他の如何なる王冠も、私は、(自分がお見せした)剛勇が当然受けるべき報酬として求めはしませんぞ、

今迄私が行なつてきたありとあらゆること、乃至は、今後行なうことになる筈の、全てのことに対してね。

230

225

220

230

240

235

250

245



ご覧下さい、貴方のお足許に、（私という）一人の君主がひれ伏しているのですぞ、

いや、それに留まらず、貴方の友人味方でもある者がね。これだけ申し上げれば、もう充分ですな。

スキピ 激情に駆られるあまりに、国王としての貴方の尊厳を貶めてはなりませんぞ。

お立ち上りなさい、勇猛な王侯よ、貴方が言われたことを、私は考えてみましたぞ。

して、あなたの友人味方として、私は、我慢がならないのです。

貴方が不運不幸に遭っていることを嘆き悲しみ、貴方同様、哭きたい、という気持にもなるのですな。

ローマの暴虐をば、憎み呪い、貴方が、永劫に、

薄倅の、あの麗しの美女と合一出来れば良かったのに、と思いますぞ。

マシニ おお、貴方は、私に幸せを覚えさせて下さいましたな！

スキピ マシニツサ殿、お待ちなさい。

貴方は、唯、友情が、言え、と私に命じたことをば、お聞きになっただけなのです。

ですが、ローマの執政官、及び、権力者として、もうこれ以上、彼女に会わぬように、と、私は、今や、貴方に命じますぞ、

彼女に会うことが、重大な結果を生じさせてはいけませんからな。

それが、動かすべからざる、最後の、私の命令なのですぞ。

マシニ 貴方の見せかけの惻隱の情は、そんなことになるのですか？

貴方の泪は、

かのエジプトの怪物（鱷）が、その目から流す泪よりも、不実なものなのですか？

265

260

255

暴虐なローマよ！ 野蛮残忍なのだ、お前の法律は、悉くな。その為に、あなたの呪わしい主義主張を奉じ、

その貴重な食料を惜しまずに浪費して、生気を飢えさせ、意気消沈し、こよなく大事な自分の血を空にし、

部下の兵士達の軀で、ぐるりと人垣を築く迄も闘ったという訳なのですか？

宿命に大いに注目されたので、私は、（恋の）痛手を受けた者という風にも見えました。

しかし、血を流している、貴方の鷲達を、地上から甦らせてやったのですからな。

スキピ そのことについては、もうお考えなさるな。彼女の想い出は、お捨てなさい。

マシニ 私のこの軀を、ずたずたに切り刻み、私の魂をば、（軀から）引き剥がしてみして下さい。しかし、

私のその軀の、いとも小さなものの欠片にも、貴方は、ソフォニスバの姿をご覧になれましょう。

その全てが、私の魂に似たもので、どの欠片にも、全て同じ姿形が見られるのです、

この目から流れ出る泪で湯浴みし、この心の臓から流れ出る、その血を流しているやつですがね。

スキピ レーリウス、王妃を監禁するがいい。

マシニ 待たれい、レーリウス、お待ちなさい。

私から申したいことは、洗い潔い申し上げましたからな、閣下方の権力に従いますぞ。

王妃は、死ななければならず、国王の命令で、そうなるのですからな。

彼女は、帝国の犠牲にならなければならぬのですな。

285

280

275

270

そうすると、この私は、これから、一体如何なるのだろうか？  
又キビ ソフォニスバが喪われることで、

あんたは、武力を揮つて、ヌミディア帝国を独占出来よう。

貴方が、つい先頃、ザーマ<sup>(6)</sup>にて発揮された武勇に關しては、

情け深いローマは、貴方に帝冠を獻呈し、

貴方を国王と呼んで、歓迎しますぞ。さあ、貴方の悲歎をば、洗い

滌い忘れてしまわれるが宜しい。

そうなつてこそ、我々は、貴方を、我々の勇猛な同盟者として、抱

擁しますぞ。

悲嘆にくれなさるのは、きつぱりとお止しなさい。こう迄賞讃され、

これ程飾り立てられているとなれば、

地上のありとあらゆる美女達をも、蔑まれるが宜しい。(退場)

マシニ あんたの栄光は、尚更蔑んで然るべきだし、ローマの自慢高  
慢もそうだな。

一方、私は、絳帷子に包まれた儘の、私の花嫁を抱きしめてやるぞ。

「我々は、決して別れてはならぬ、我々が、今、心を一つにしてい  
る如く、

靈魂も一つになるのだ」と、天が、命じているのだからな。

光り輝く、天空の各部屋を通過し、

雲の中で生まれて、宿命の目から見える所に、私は、横たわり、

彼女の魂の許迄も押し寄せるのだ。一方、神々は、物欲しげに、そ

の傍に突っ立っているのだな。

メナン 陛下、もしも、貴方がお聞き届け下さいますならば――

マシニ あんたは、一体何が言えるというのかね？

メナン 激しい熱情が支配している場合には、理性は、謀叛人となる

のですぞ。

マシニ して、あんたも、そうなんだな。だが、話すがいい、私は、

一体如何すればいいのかな？

とんでもない不実者になればいい、乃至は、誠実実直になるのだ、

と教えてくれるのかな？

メナン お妃様は、死ななければならぬのですぞ。

マシニ おや！ 死ななければならぬ、だと？ そんな話は、もう止

めてくれ。

メナン あの方は、神々に捧げられたのです、さもなくば、ローマの

権力にね。

マシニ その何方でもないぞ。彼女を死なせもせぬし、又、ローマの

捕囚として、

おめおめと生かしてもおかぬぞ。私は、彼女に、死刑執行の猶予を

与えてやるのだからな。

メナン ですが、一体如何な風にですか？

マシニ そりゃ、こんな風にだな。私は、自刃するし、あんたをも殺

し、  
ローマを、カルタゴを、全世界をも殺してやるのだ。そうすれば、

彼女は、大手を振って生きられる、というものではないかな。

メナン 栄光か、美女かの何れかを、喪うもの、と貴方は定められて

いるのですぞ。

マシニ おお、ローマよ！ おお、天よ！ 何方も共に、等しく我が

仇敵なのだ！

今迄、人の心が、これ程惨めにも傷つけられたことがあつただろう

か？

私が、今、味わっているような苦悩災いが、今迄、これ程静かに生

まれたことがあつただろうか？

私の苦悩という伝染病から、春になつても  
未だ真冬なのだ、と考えるような、酷い病気に感染するがいい、

305

300

295

290

320

315

310

王冠を戴いた征服者の、熱く滾った血を凍らせ、結婚したばかりの、若い二人が念願する欲びに、冷水を浴びせかけるような病にね。

しかし、その時には、私は、人間として、到底耐えられぬような、酷い状態になっていることだろうな。

メナン もしも、こう迄虐げられた美徳廉潔の持主をば、人が見ることがあつたなら、

一体如何な、ぞつとするような夢想に耽る愚か者迄もが、敬虔になることでしょうか？

殉教者は、最早、拷問や、火炎を必要とはしなくなりましうし、又、その他の死罪もね。唯、活力だけを望むようになるのですな、

僧侶達を殺害したり、神殿寺院に火を放つ為のね。

マシニ それでは、不死不滅の神々よ、それは、全て、神慮なのですかな？

一体何故、貴方は、折角自ら創造された者達をば、絶望に陥られるのでしょうか？

もしも、私が、不安懸念に苛まれる国王として、我が王座に坐つていたことがあつたなら、

乃至は、孤児達を虐待し、又は、寡婦の泪を飲んだことがあつたなら、

何か不埒な罪を犯して、公然と天に反抗したことがあつたなら、そんな苦悩を味わされるのには、当然の理由があつたのだ。

だが、実のところ、万事巧くいついて、私は、如何な不法不当をも犯してはいないのだ。

神々は、折角自ら創り出された者達をば、只管捉えられるだけなのだ。

メナンダー、急いで行って、二つの大杯に毒薬を充たしてくれ。

335

325

325

して、私が呼んだなら、非運（破滅）宛らに、現われて、私を殺してくれ。

メナン 貴方が、私にさせようとせつついていらつしやるのは、恐ろしい行為ですな。

マシニ それは、榮譽栄光を齎す行為でもあるのだからして、私の命令をば、あれこれ論わないでくれ。

メナン 手前は、貴方の深遠なお考えを敢て推測しようとは思いませんが、

貴方のご意向は、（私という）貴方の奴隸によつて、早速にも、果たされましようぞ。（退場）

マシニ 今迄、恋と、野心とが、全力を尽くしてくれていたが、私に確信させてくれたのは、恋で、私を駆り立てていったのは、野心だつたのだ。

峻険な山腹を攀じ登っている、向う見ずな少年宛らで、やがては天に到達出来る、という、勇ましい想いに胸膨らませ、

喘いだり、息を切らしたり、えらい苦勞を重ね、体力の続く限り、せつせと登り続けて、大騒ぎをやらかすのだ。

だが、頂上に辿り着くと、彼が空想していた天と、美しく彩られた蒼穹とを、残らず、遥かに眺めやるのだ。

そのように、野心は、巧みな手練手管で、私を引っ張って行き、束の間の恋が、私の際立つた野望を欺いたのだな。

ソフォニスバ、登場。

ソフォ ああ執政官は、戦勝に飾られて、帰還したのだ。

勝ち誇るローマ軍の勝鬨が、俯する大地を引き裂き、天空に迄も、嚙喰たる喇叭の響きが届いたのだけれど、

355

350

345

340

マシニツサ王の如何な消息も、私の耳には届かないのだ。  
 もしも、彼が、殺されるようなことがあったなら、それは、当然に  
 も、私が惧れていることなのだけれど、

女の中でも、この上なく途方にくれ、絶望し、破滅した女よ、  
 お前に一体何が出来るのかしら？ 如何な神々に、お前は、償いが  
 出来るのでしょうか？

忌み嫌われながらも、お前は、怒れるローマへと赴き、  
 捕囚が受ける、ありとあらゆる残酷な仕打ちに耐えねばならないの  
 だ。

いいえ、ソフォニスバ、お前が、今迄、一体何者だったのか、考え  
 てもご覧、

二人の君主の想われ人で、二度王妃にもなったのだ。  
 もしも、お前が、斃れ死ななければならぬものなら、雄々しくも息  
 を引き取って、  
 死に臨んで、ローマ人達を凌いでやるがよい。

マシニツサ王、登場。

おお、愛する貴方！ それでは、貴方は、到頭来て下さったの？

貴方は、生きていらつしやるの？ して、私は、今、しっかりと貴  
 方を抱きしめているのかしら？

マシニ あんたと同じ女性の中でも、この上ない女性、私の命よりも  
 大事で、

こよなく美しい（私の）想い人で、いとも優しい妻なのだ！  
 とても、高貴で、輝か（素晴ら）しいので、帝王達も、あんたを羨  
 望しているし、

又、大変慈悲深いので、神々も、私を嫉視しているのだ。

彼等は、あんたを此処へと派遣したのだが、それは、じつと見つめ  
 て、それを知らせるべく、

近間がよく見える眼を備えた、只管天使の偵察者としてなのだよ、  
 地獄の責苦と、運命の拷問とを見透せる眼をね！  
 あんたはな、死ななければならぬのだよ（おお、それを口にすべ  
 く、この私が、おめおめと生き長らえているとはな！）

ソフォ おお、有難い声の響きよ！ そうすると、私達は、ローマへ  
 と引つ立てられて行かなくともよく、  
 栄光のベッドで、厳かに勝利をお祝い出来るのですね。

この最後の関の声は、項垂れている私の気魄を励まし元気づけてく  
 れるのだ、

丁度、武人が、お気に入りの喇叭の響きを聞くと、  
 勇ましい彼の血は、忽ち、温かくなり始めて、  
 沸き返り、紅潮する彼の顔に迄も、その血が昇って来るようなもの  
 ですわ。

して、栄光を目指すレースで、奮闘したい、と、彼は、大いに熱望  
 するのです。

もう一度、私を守護し、確実に防衛してくれる、死について、お話  
 して下さい。

それは、力強い響きと、ずつしりと重い意味とを持つているのです  
 わ。

マシニ おお、じつと其処に留まっているがいい、今、あんたの美德  
 廉潔が燃えている間はね、

そして、神力を放射するがいい、私が、ショックを与えてあげるか  
 らな。

出て来るがよい、メナンダー、あの致命的な大杯を持つてな、  
 その中に湛えられた液体は、人の体力を抑制しはするものの、

370

365

360

385

380

375

心を甦らせ、魂の渴望を蔽い匿してくれるのだからな。

メナンダー、大杯を二つ持って、登場。

それを、一口私に飲ませてくれ。

ソフォ 私に愛する国王様は、一体如何なお心算ですの？

マシニ 聡明なあなた自身、及び、ありとあらゆる天上の神々のお蔭で、

如何な天使の巧みな弁舌も、私を心から感動させることはあるまい。

あなたと共に死に、あなたの大切な名誉面目を救うこと、それを凌ぐ程の、如何な偉大な栄光をも、野心満々たる者が博することがありえようか？

それは、私の為に、墓穴の中に、宮殿を築いてくれよう。

もつとも、呼吸することが酷く苦しくなってきたこととて、あなたが死ぬ、ということを考えて、私は、身震いせぬ訳にはい

かないけれどね。

ソフォ その名声が、何処へ飛んで行こうとも、心痛している人や、さめざめと涙を流している人の氣持をば、晴れ晴れとさせてくれる、この上なく立派なお方、

貴方の魂を、私の為に震えさせないで下さい、何しろ、私は、如何な苦悩でも、味わうのを惧れる筈はありませんからね、貴方が亡くなるのを見ること以外にはね。

マシニ それでは、心愉しく逝こうではないか。さあ、私が愛しているあなたの幸せと、

天上の聖徒達との、我々の出会いを祝して、乾杯！（毒液を飲む）

ソフォ その大杯を、私にも廻して下さい、私の手が、ぶるぶる震え

390

るものかどうか、よく見ていてね。

さもなけりや、次から次へと、新たに沸き上がって来る血が、私の唇を見捨てるものかどうか、注目して下さい。

心臆することなく、我が口許へと、この飲み物をば、私は持ち上げ、我が殿の幸せを祝して、乾杯しますわ、これは、我が殿の、私との婚礼に際しての贈り物なのですけれどね。（毒液を飲む）

マシニ メナンダー、誠実な、腹心の友よ、おさらばだ。急ぎ赴いて、我々の物語をば、あの執政官に伝えてくれ。

あなたの忠誠心を抛り所として、返事などせずに行つてくれ。私が、雄々しくも死ぬのを見ては、あなたも、悦んでくれようから

な。（メナンダー、退場）

私の唯一人の恋人は、ご機嫌如何かな？ 最初にして、最後の、我が恋の相手よ！

一千度もの春の、馨しい花が、此処には咲いているのだ、

全てあなたの溜息の中にね！

ソフォ ああ！ 貴方の優しさをお捨て下さい。

さもなけりや、私達は、おめおめと生き延びて、ローマの権力を痛感することになりますわ。どうも、死神が、ぞつとする程の苦痛を味わわせるような手で、私に触つたみたいですわ。

だけど、貴方の温かい口付けが、私のどの血管の中にも、今迄よりももつと情け深い熱を射込んで、再び生気を燃え立たせてくれたのですわ。

マシニ こうして、永劫（の世界）へと乗り出そうではないか。底もなく、果てしもない、死の海の中へと沈み込んで行こう、

溺れかけた友人味方同士宛らに、しっかりと抱擁し合い、

恋の網の目とも言うべき、我々の腕をば、お互いに相手の軀の周り

395

400

405

415

420

410

に投げかけ合つてね。

ソフォ ずつと長く続く人生、乃至は、帝国が、一体如何な、これに似たものを与えることが出来ましようか？

マシニ あんたとの恋こそ、帝国であり、永劫の至福なのだよ。

ソフォ 私は、もう参りますわ。一体何処で、私達は、今度お会い出来るのでしょうか？ (死ぬ)

マシニ それは、神々だけが存じだな。

天国の平安と、こよなく安らかなまどろみとが、あんたの許に宿るように！ (死ぬ)

スキピオ、レーリウス、及び、メナンダー、登場。

メナン 彼処をご覧下さい、閣下、貴方の性急なご審判の結末をね。

このお二人は、貴方が、ローマ(という神)へとお捧げになつた生け贄なのですな。

レーリ 如何な残酷な人の目が、此処では、惻隱の情を抱くのを差し控えられるのでしょうか、

これ程の、国王級クラウスの恋人同士が殺されるのを眺めているとなりましたらね？

スキピ 此の二人の、思いがけない光景は、大いに

私の理性を驚愕させたので、私は、ずつと何時迄も、二人の姿を眺めていられる程だな。

いとも偉大で、愛すべき王侯であるあんたが、亡くなつてしまったからには、

戦闘の行進をば、このスキピオは、最早踏み行う必要はなくなるだろう。

カルタゴ相手に、早速にも、我々は、和睦を取り結ぶことにならう

435

425

が、

その国をば、もしも、あんたが、生きていたとしたならば、我々が、武力を揮つて、制圧していたことだろうな。

それから、ローマへと、項垂れた、我がローマの鷲61は、向かうことだろう。

其処で、面倒な儀式を済ませた後、我々は、何処か小さな村へと赴くのだ、レーリウスよ、あんたと、私とがな。

して、覚えることになるのだ、生き方ではなく、死に方をな。(一同、退場)

440

納め口上

― オックスフォードでの上演の際、ソフォニスバが口述

学識豊かな、この場の観客の皆様には、私共は、欣然として、私共の所作も、我等が詩人の機知をも、その判断をば、共に委ねますわ。

その靈魂は、頗る悦に入つて、高名な皆様がお坐りの、これ等の座席にやつて参りましょう、生れつき身に備わつてゐる曲をば、詩女神達（補注）が口吟むのを聞く為にね。

非常識な党派の連中が、この詩人をこきおろし、そわそわと落ち着かぬ、ヘクトール（64）のような空威張り屋が、兜を見つける場合のような、

依怙虜辱する、町の批判から免れて、この芝居の半分を、彼等は、騒音を発したり、喧嘩口論をして過ごし、残りの半分を、居眠りしてやり過ごし、それから、目覚めたとなると、芝居全体を駄目にしてしまうのです。

皆様には、苦心して書き上げられた場面の方が、よりよく知られていますが、

其処では、如何な詩人でも、皆様方の詩人をば、その筆力で凌いだことは、今迄なかつたのです。

誰か高名な英雄（である主人公）が、舞台上で見られたなら、皆様は、早速、それが、神宛らの、彼の物腰なのだ、とお考えになることでしょうね。

5

途方もない範囲に迄も、広漠たる彼の征服戦勝は拡がったので、彼は、あれ程、栄光赫々と支配し、あれ程、時ならずして（思いがけなくも）斃れてしまつたのです。

本物（実物）をご存じなのに、貴方は、模倣品を賞讃され、その芸術家に、それに相応しい月桂冠を冠せられるのです。

こうして、私共は、我が詩人達が、その真価通りに評価されるに任せておきますが、

私達自身に対しては、より寛大な、皆様の批評を懇願致しますわ、つまり、皆様は、筋の運び（事件の展開）の拙さという欠点は、悉く、私共の、

窮迫している舞台事情の所為にされるのですが、それは、私共の所為、私共女達が嘆願している所為ですわ。

裁判官は、今迄、美女に対して不親切だつたことは、決してなかつたのですが、

それによつて、心が一体如何なものなのか、を理解していたのです。私共が、始めて、尊敬の念をば、心に抱くようになったのは、学校

からなのですけれど、私達と同じ女性のうちの、一体誰が、今迄、学校での学問を習得し

た、というふりをしたことがあるものでしょうか？

このように、詩女神達（補注）は、そして、又、こんな風に、カリス女神（補注）も、衣裳を纏つていましたし、

かのプラトーンも、こんな風に、己が（思想の）精髓を言い表わしていたのです。

私共は、ソフォニスバの声望に、一体何が当然与えられるべきものであるか、を存じておりますし、

それを凌ぐ程にも貞潔なロザリンドの名声には、更に、それ以上のものが相応しいことをもね。

10

25

20

15

又、此処で、華麗に用いられているような、学識豊かな言葉を使えば、丸つきり知らぬ、という風を装うことも出来ませんわ。

たとえ、私共が、皆様の権限を侵害して、

オウイデイウス<sup>66</sup>、乃至は、カトウルスの手になる恋の唄を朗誦するか、

さもなければ、ウエルギリウス唄うところの、アエネアスの労苦から、

「お唄いあれ、詩の女神よ、ペーレウスの子息なるアキレウスが、憤怒に駆られし仔細をば。」という詩行迄も、(皆様に)お伝えすると致しましても、何卒お驚きにはなられませぬように。

30

注

(1) 「テスピス」(Thespis)。古代ギリシア悲劇の祖とされる、前六世紀の詩人。演劇の詩的芸術形式を創造、合唱隊から俳優を独立させ、舞台と薬屋、仮面なども考案した。自ら俳優としても立ち、悲劇を多数作つたようだ。このテスピスを、古昔のオックスフォード大学教授に仕立てたのは、この前口上を書いたドライデン一流のユーモアだろう。

(2) アイスキュロス(Aeschylus)。エウリピデス、ソフォクレスと共に、ギリシアの三大悲劇詩人の一人。

(3) 毀誉褒貶相半ばする、つまり、誉めたり貶したりする批評を下すことをテニスというスポーツに喩えて、このようにユーモラスに表現したものであろう。

(4) スコットランドの宗教改革者「ジョン・ノックス(John > Jack Knox / 1505?-72)」を指しているのだろう。彼は、若くして新教を奉じ、一五五四年、メアリー女王即位後、カトリック的反動時代になると、ジュネーヴに亡命、カルヴァンの教えを受けた。五九年、スコットランドに帰国、彼の指導を受けた新教徒達が、信仰と独立の為、積極的に立ち上がり、カルヴィニズムに基づく「長老主義」(Presbyterianism)が国教と定められ、長老教会制が確立した。六一年メアリー女王がフランスから帰国後も、そのカトリック的傾向を忌憚なく批判し、六七年メアリー女王退位後も、カトリック派との熾烈な闘争を続けるという具合に、カトリシズム批判の急先鋒だった人物で、アメリカの劇作家マックスウェル・アンダーソン作の韻文劇「スコットランドのメアリー女王」参照。ジョン・ノックスの主著は、「スコットランド宗教改革史」。

(5) 「オッカム」(William of Occam 1300?-1349?)。イギリスのスコラ哲学者で、初め、ダンス・スコトゥスに師事したが、後、その競争者となり、唯名論を唱えて、異端の疑いをかけられた。

(6) 文芸復興期の古典文学研究家が、その著作を「愚鈍なり」と攻撃した、スコラ学派の神学者「ジョン・ダンス・スコトゥス」(John Duns Scotus)を指している。(Duns > Dunce=fool)

(7) 新約聖書マタイ伝二二章二五節参照。

(8) 「アルヌス」(Arnus)については、不詳だが、はじめと湿潤な湿地

35



- 帯だったのだろう。
- (9) 「ハンノー」(Hanno)は、前三世紀に出たカルタゴの政治家で、ハミルカー・バルカヤ、ハンニバルの政敵だった。土地を所有する貴族階級の代表者として、第二ポエニ戦役(218-201B.C.)の間、ローマとの講和を主張し、ザーマの戦闘が終結してからは、スキピオ・アフリカーヌスに和平を請願する、使節の一員となった。
- (10) 「トレビタ河」(Trebis, Trebia)。イタリア北部を流れ、ピアチェンツァの近くで、ポー河と合流する。長さ約六〇哩の河。
- (11) 「トラシメネ湖」(Trasimene, Trasimeno)。イタリア中部、ベルジア西方一六kmの、アペニン山中にある湖で、湖畔では、前二一七年、ハンニバルがローマ軍を破った。
- (12) 「カンナエ」(Cannae)。イタリアのアッピュリア地方で、アウフィドゥス河の南方にある町。この近くで、前二一六年、約五万名の軍を率いたハンニバルが、八万、乃至、九万名のローマ軍をほぼ全滅させた。
- (13) ギリシア神話で、人間の誕生。寿命・死を司っている、とされた「運命の三女神達」(Fate Sisters)。人間の寿命という糸を紡いだ「Clotho」、その長さを測って決めた「Lachesis」、その寿命の糸を断ち切った「Atropos」という三名の女神達。
- (14) 注(12)参照。カンナエの戦闘で、ヴァッコと共に、ギリシア軍を指揮して戦死した、名将アエミリウス・パウロス。
- (15) 「カプア」(Capua)は、ナポリの一七哩北方に位置する、奢侈歡樂で有名だった、古代イタリアの都市。
- (16) 「アレキデース(ヘラクレス)」は、ゼウスとアルクメネとの息子だが、彼を産んだ母親への抜き難い嫉妬から、ゼウスの妻ヘラは、執拗にヘラクレスに数々の(十二もの)難業を課して、迫害するが、彼は、それを見事に切り抜けた。
- (17) マシニッサ王と闘った、敵軍の勇士だろう。
- (18) 「エウロパ」、又は、「エウロペ」(Europa, Europe)。「ギリシア神話で、フェニキア王の娘。彼女に恋したゼウスは、白い牡牛に姿を変え、彼女はその背に乗せられてクレタ島に渡り、二人は結ばれた。「ヘレスポント」(Hellaspoint)は、今のダーダネルス(Dardanelles)海峡の古名。この海峡については、クリストファ・マローウ作の恋愛詩「ヒーローとリア

- ンダー」参照。
- (19) 前一〇〇〇年頃、アラビア南西部イエメン地方に住んでいたシバ(サバ)族の人々が作っていた香水。
- (20) 「レテ」(Lethe)河は、ギリシア神話に出てくる忘却の川で、黄泉の国を流れ、その水を飲むと、過去のことを一切忘れてしまう<sup>よ</sup>とされていた。
- (21) 「キルタ」(Cirta)は、アフリカ、ヌミディアのマッシリイにあった古代都市で、其処に築かれた要塞で有名だった。
- (22) 「ザーマ」(Zama)。北アフリカで、カルタゴの約八五哩南西にあった町。この近くで、前二〇二年、スキピオ、アフリカーヌス麾下のローマ軍が、ハンニバルに対して決定的勝利を収め、第二次ポエニ戦役を終結させた。
- (23) アルジェリア東部とテュニスを貫流し、テュニスの北二四哩の所でテュニス湾に注ぐ「Medjard」河の古名が「バグラダ」(Bagradas)。
- (24) ギリシア神話で、百もの目を持つていたとされる巨人「アルゴス」(Argus)。一般に、「油断のない見張り人」の意で用いられる。
- (25) ハミルカーの子息で、ハンニバルの兄弟だったハ(ア)スドルバル(Hastubal, Astubal)。前二一八年ハンニバルがイタリアへ向けて出立すると、彼は、スペインにおけるカルタゴ軍の指揮を委ねられて、スキピオ達相手に何年間か闘っていたが、二〇七年アルプスを越えて、イタリアへ降りてくると、メタウルス河畔の闘いで敗れて、戦死した。
- (26) 「カルタゲーナ」(Carthago, Carthagenae)。スペインのムルキア地方にあり、地中海に面した港町で、古名は、「Carthago Nova」新しきカルタゴ。
- (27) ギリシア神話のメドゥサ(Medusa)。三人姉妹の怪物(Gorgons)の一人で、毛髪が蛇の形をしている。
- (28) ギリシア神話で、ホメロスのオデュッセイアに出てくる魔女「キルケ」(Circe)。魅惑的な、妖婦型の美女。英語読みでは、「サーシ」。
- (29) イタリア、シチリア島の古代の港市、シラクサの北部地区がヒュブラ(Hybla)で、近隣の丘陵から生産される甘美な蜂蜜で有名だった。
- (30) ギリシア神話で、風を産み出した父親とされる「テュポエウス」(Typhoeus)。
- (31) 注(22)参照。
- (32) 注(23)参照。

- (33) スペインの東海岸に在った古代の都市「サグントゥム」(Seguntum)で現在の「ムルヴィエドロ」。前三世紀に繁栄し、ローマと同盟を結んでいたが、前二一九年ハンニバルの攻囲を受けて占領され、ローマがカルタゴに宣戦布告する直接のきっかけとなった。
- (34) ローマの詩人ウエルギリウスがその「アエネイス」で謳った、アンキーズ (Anchises) とアフロディテ (ウエヌス) の子で、ヘクトールに次ぐトロイアの英雄アイネイアスを指している。トロイア落城の際、燃え盛る猛火を掻い潜って、父を背負って救出したのは、トロイア戦争の一つのエピソードであり、彼は、後にギリシア本土を巡りもしたが、神命によりローマに入り、周りの部族を平定してローマ王となり、ローマ建国の基礎を築いた。その子孫が、ロムルスといわれる。
- (35) ギリシア神話で、日神ヘリオスの子息の「パエトン」(Phaëton)。父の太陽の戦車を御したい、と高望みしたが、御しきれずに暴走させ、ゼウスの怒りをもって、雷電で撃ち殺された。
- (36) 注(21)参照。
- (37) 「トラキア」(Thrace)。バルカン半島古代の地域。現在は、ギリシア領と、トルコ領とに分かれる。
- (38) ギリシア神話で、アフロディテ (Aphrodite) 、「つまり、ウエヌスに愛された美少年。
- (39) 一四世紀欧州を襲った腺ペストを代表とする疾病である「黒死病」。患者の皮膚が、皮下出血の為赤黒く見えるのが、この名の由来。
- (40) ギリシア神話で、ゼウスとレダの娘で、ギリシア随一の美女「ヘレネ」。スパルタ王メネラオスの妃となったが、彼女が、トロイア王子パリスに連れ去られたことが、トロイア戦争の因となった。
- (41) 古代ローマの農耕の神「サトゥルヌス」(Saturnus) で、ギリシア神話のクロノス (Cronus) に当たる。
- (42) 注(22)参照。
- (43) 「レプティス・マグナ」(Leptis Magna) は、北アフリカに在った海港で、今の「レフダ」(Lebda)。
- (44) 「テューレ」(Thule) は、イギリスの北方に泛ぶ島嶼群 (オークニー諸島、及び、シェットランド諸島) に古くから与えられていた名称で、二〇〇年以上の間、調査論争の的となっていた。
- (45) クイントゥス・ファビウス・マクシムス・ヴェルウルコースウス (前二〇三歿)。五度に互ってローマの執政官を勤めたが、慎重な、事毎に時機を待とうとする、慎重なその政策の故に、「Cunctator」「遅延者」と呼ばれていた。
- (46) マルクス・クラウディウス・マーセラス (前二六八―二〇八)。五度に互ってローマの執政官を勤めた。その三期目に、彼は前記ファビウス・マクシムスの同僚で、第二次ポエニ戦役を遂行すべく、イタリアとシチリアへと出向き、前二二二年には、シラクサを攻囲して占領した。
- (47) 注(12)参照。
- (48) 「ガリア」(Gallia) は、古代ローマ人がケルト人の居住地を指して呼んでいた名称で、現在の北イタリア、フランス、ベルギーに当たる。前五八一年、カエサルが遠征して、ローマの属州となった。
- (49) 「リグリア」(Liguria)。イタリア北西部地中海沿岸の州で、州都はジェノヴァ。平野の狭い海岸は、リヴィエラと呼ばれる観光保養地帯として有名。
- (50) 「マッシリア」(Massilia)。フランスの「マルセイユ」(Marseille) のことか？
- (51) 不詳。
- (52) 不詳。
- (53) 注(9)参照。
- (54) 注(15)参照。
- (55) フェニックス (Phoenix) は、エジプト神話の不死鳥で、「フェニキアの鳥」が原義。五〇〇年、乃至六〇〇年毎に、自ら火中に入って焼かれ、その灰の中から再生するといわれ、形は鷲に似て、赤か金色の翼を生やしている。
- (56) ミルラ (myrrh) は、ミルラ樹脂、没薬ともいわれ、香・香料となり、古代エジプトなどでは、木乃伊製作の際にも用いられた。
- (57) アッピア (Appia) 街道、古代ローマの主要街道の一つで、ローマと南イタリアとを結ぶ最初の舗装道路。前三二二年監察官アッピウス・クラウディウスにより建設され、現存している。
- (58) (ア)エミリア街道は、監察官アエミリウス・レピドウスが前一八七年に建設した、リミニとピアチェンツァとを結ぶ、北イタリアの主要街道。

現在も用いられている。

- (59) 「サブッラ」。(原文では、'the Saburra' となっている。) 不詳。交通上軍事上の要衝となっていた。(ア)エミリア街道の延長線上に位置する、北イタリアの地名だろう。(Saburra' は、ラテン語としては、「砂」が原義だが、此処では、「砂地、砂原、砂丘」といった意味の普通名詞が、固有名詞化して、地名として用いられたものだろうか?)
- (60) 「エジプトの怪物」とは、ナイル河に棲む「鱷」(Crocodile)を指しているが、当時、鱷は、「空泪を流すもの」と信じられていたのだ。
- (61) 空中高く翼を拡げて鷲(Eagle)が舞う姿は、太陽や神など至高の存在と結びつけられて、権威・権力等を表わし、ギリシア神話では、最高神ゼウス(ローマ神話では、ユピテル)の鳥とされていた。二七五行(貴方の鷲達)では、「精強無比のローマ軍の兵士達の意で、四四一行(我がローマの鷲)では、「全世界を統べる王者の、ローマ国という鷲」の意で、用いられている。
- (62) ヌミディア(Numidia)は、アフリカ北岸、カルタゴの西部・南部を占める地域で、ベルベル人系の遊牧民の居住地。前三世紀初めマシニッサが統一王国を建ててから発展、後ローマの属州となり、帝政期には、ローマの文化が移入され、キリスト教が栄えた。
- (63) 注(22)参照。
- (64) 「ヘクトール」(Hector)は、「弱い者苛め、空威張りする人(Dully)」というのが大方の評価(印象)だが、これとは裏腹に、原典の「イーリアス」では、トロイア王プリアモスとヘカベの長男で、アンドロマケの夫であり、トロイア戦争で活躍したトロイア最強の勇士で、アキレウスとは対照的に、温和高潔な人物として登場し、善戦するが、遂にアキレウスに殺され、彼の屍体は馬で引きずり廻され、プリアモスが大金を積んで貰い下げた、ということになっている。
- (65) 「オウイディウス」(Publius Ovidius Naso)(前四三―後一八?) 富裕な騎士階級出身の、ローマの詩人。ローマ、アテーナイで法律と修辞学を学んだ後、官職に就いたが、全てを捨てて、詩作と社交の生活に入った。平和と繁栄に充ちたアウグストゥス治下の華美な歓楽生活を謳う彼の詩は、若い社交人達にもて囃され、中でも「恋愛の技法」(Ars Amatoria) 後一? 刊行)は絶賛された。紀元後八年、彼は、突如、原

因不明の儘、黒海沿岸の蛮地へと流され、故郷を恋い偲ぶ、哀切極まりない詩人の願ひも空しく、遂にこの地で亡くなった。この為、代表作「転身譜」(Metamorphoses)は未完に終わった。これは、ギリシア、ローマの神話伝説に基いた変形転身物語を集大成しようとした野心作で、力強きには欠けるものの、詩的天才的で華美な彼の詩術は、独特のものであり、自由奔放な官能性を土台にして、人間に新しい光をあて、神話を入間的に理解しようとした点は注目すべきで、ルネサンスになると、いち早く親しまれた詩人で、広く深い影響を及ぼした。

- (66) 「カトゥルス」(Gaius Valerius Catullus)(前八四?―五四?)ヴェローナの裕家生まれの、ローマ最大の抒情詩人。彼の詩の特徴は純粹さにあり、感情表現は直截素朴で、都会的センスを備えた優雅な人物を理想としており、屢々民謡風の軽い形式をとりつつも、その底には、常に洗練された技巧と機知とを秘めている。彼は、若くしてローマに出て、文壇と社交界とに入りし、知り合った貴族の妻クローディアと熱烈な恋に陥ったが、彼が、己が詩の中でレスビアと呼んだ、年上のこの女性は、若者の純情と情熱とを玩んだだけで、数年後、彼は失恋の憂き目を見ることになるのだが、愛の歓喜の絶頂から、疑惑、裏切られた悲しみ、憎悪、絶望、苦しい出に至る迄も、不羈奔走で情熱的に謳っている。彼にとつて、愛とは、全身全霊を傾けた重大事であり、戯れの軽い詩によって済ますことは出来なくなり、真剣な愛の歓喜の詩に昇華させることによつて純ローマ的恋愛エレゲイア(elegia ≡ elegy, elegiac)自分にとつて特別な人の死や、万人の儂さ、愛する者の変わり易さを悼み歎く歌、つまり、「死の問題に基づいて作られた一種の瞑想曲」詩人達の先駆となった。彼は、ギリシア抒情詩の韻律をラテン詩に採用し、サッポーを始めギリシア抒情詩人、及び、カリマコス等、アレクサンドリア派の影響を受けた。豊かな彼の詩風は、後世のラテン詩人達に大きな影響を及ぼし、ルネッサンス以降、彼の率直端的な人間性の表現は、ヒューマニスト達、及び、近代西欧の詩人達に深い影響を与えた。
- (67) 「ウェルギリウス」(Publius Vergilius Maro)(前七〇―一九)ローマ最大最高の詩人。北イタリア、マントゥア近くの中農の家に生まれた。クレモナやミラノで教育を受け、次いで、ナポリでギリシア語ギリシア文学を研究、一六歳でローマに出て、エピクロス派の哲学や修辞学を学

んだ。彼の生涯は、アウグストゥス帝によるローマ統一と繁栄の時期に当たっているが、彼は、個人的にも、皇帝の知遇を得、次第にローマ帝国の理想と力を謳う国家的詩人として成長していった。この頃既にアウグストゥスの直接の薦めにより、後世に残すべき記念碑的作品として、ローマ帝国を称える叙事詩を計画していたようで、以来余生の一年間は、大作「アエネーイス」の制作に没頭したが、前二〇年物語の背景となる風物を見るべくギリシアへと旅立ったが、途中発病し、未完の大作を抱いた儘、南伊カラブリアの港で客死した。彼の代表作「アエネーイス」(前三〇―一九)は、ギリシアの叙事詩「イリアス」と「オデュッセイア」とを真似てつき混ぜたような内容形式である。「イリュウス」にも現われるトロイアの英雄「アエネアス」(Aeneas)が、祖国滅亡後、運命に導かれて長い漂泊放浪の旅に出、海陸で苦難の限りを味わい、遂に目的地イタリヤに辿り着き、先住民達と死闘を尽くした末、ローマ帝国建設の礎を定めたという物語。一一年に亘って磨きあげられた文体は、ローマ文学に冠絶する見事なもので、国民的叙事詩の傑作として、後世に永く愛唱された。作品としては、他に、田園生活の詩趣にあふれ、技巧的完成度においては傑作「アエネーイス」を凌ぐとさえ言われる「農耕詩」(Georgics, 前二七―三〇)がある。

(補注一)「ミューズ、ムーサ (Muse, Musa) 女神」は、ギリシア神話で、ゼウスとムネーモシユネー (Mnemosyne) との娘達であり、文芸・音楽・舞踊・哲学・天文など、人間のあらゆる分野の知的活躍を司る。カリオペー (Calliope)・クレイオー (Clio, Klio)・エラトー (Erato)・エウテルペー (Euterpe)・メルポメネー (Melpomene)・ポリュヒュムニア (Polyhymnia)・テルプシコロラ (Terpsichora)・タレイア (Thalia, Thaleia)・ウーラニア (Urania) という、九人の女神達のうちの一人。

(補注二)「カリス (Charis, Grace) 女神」は、ギリシア神話で、ゼウスとエウリュノメー (Eurynome) との娘達で、美・優雅・喜びを象徴する、三人姉妹の女神達。「輝く女」を表わすアグライアー (Aglata)、「喜び」を表わすエウプロシユネー (Euprosyne)、「花の盛り」を表わすタレイア (Thalia, Thaleia) のうちの一人。

正誤表

前口上12行目

④ 長老教会に支持されるジャック  
④ 長老教会制を唱導力説して、確立したジャック

前口上19行目

⑥ ジョン・ダン・スコトウス  
⑥ ジョン・ダuns・スコトウス

三幕一場41行目

⑤ スペインのアスドルバル<sup>25</sup>へと、貴方が、以前に逃亡され、  
⑤ スペインにいるアスドルバル<sup>25</sup>が、貴方の面前で敗走を喫し、